

第Ⅱ章 調査概要

(1) 背景

マレーシア連邦を構成する 13 州の中でサバ州の貧困率は 20.1%と最も高く、全国平均(7.5%)の 3 倍弱になる。また、同州では、農村部の貧困率(27.3%)が都市部(6.3%)の 4 倍で都市と農村の経済格差が大きい。サバ州の農村女性に対しては、従来女性グループの起業活動支援等が行われてきているが、支援に係る機関、サバ州農業食品産業省傘下のサバ州農村開発公社(KPD)や連邦農業省農業局(DOA)のノウハウは乏しく、体系的な活動が実施されていないのが現状である。

このような状況から、サバ州農村女性の地位向上と関連機関による農村女性への支援能力を強化するための取り組みが必要となり、2000 年 8 月、マスタープランおよび活動計画策定の要請が日本国に提出されている。

日本国政府は、マレーシア国政府の要請に基づき、同国において「サバ州農村女性地位向上計画」を策定することを決定し、国際協力事業団がこの調査を実施することになっている。既に「マレーシア・サバ州農村女性地位向上計画調査」において、2002 年 9 月から実証調査が実施されており、本調査では各種パイロットプロジェクトを実施し⁴、支援機関のプロジェクト管理能力の向上を目指している。

このマレーシアの現状と計画および開発調査の状況は、本研究会の主旨・活動内容と合致する部分があること、マレーシアで開催されるセミナーに本研究会の研究概要・事例を紹介することを通じて相互に学びあう機会を得られること、および相乗効果を望めることが考えられ、本調査を実施するに至った。

(2) 目的

- 1) サバ州農村部における生活実態と生活改善努力について理解する。
- 2) 当該事業の開発調査における農村生活改善への取り組みについて理解、考察する。
- 3) 調査団は、現在までの日本の農村生活改善の経験および関連する研究成果が、マレーシアでの村落開発においてどのように役立つのかを考察する。
- 4) 今後、開発途上国において、日本の農村生活改善の経験に基づく援助を行う際の前提条件、留意点などについて検討する。
- 5) マレーシアの政策立案者、カウンターパート(C/P)等に対してセミナーを通じ、日本の生活改善の概要・事例を紹介する。

(3) 参加関係者

マレーシア側＝開発調査関係機関政策立案者、普及員指導者、普及員等
日本側＝開発調査実施調査団員、作業監理委員、当該研究検討会調査団

⁴ パイロットプロジェクトの全容については、附属資料①パイロット活動の現況参照

(4) 日 程

現地調査： 平成 15 年 2 月 10 日（月）～2 月 20 日（木）

セミナー： 平成 15 年 2 月 18 日（火）

(5) 内 容

1) 現地調査：各パイロットプロジェクトを視察、関係者（住民、普及員、政府関係者）にインタビューおよび協議をする中で、現地の活動状況を理解し、学ぶと同時に日本の生活改善の経験を応用できる点を検討する。

2) セミナー：

- ①日本の生活改善の歴史、概要、事例紹介
- ②現地調査報告
- ③総括（質疑応答等）

(6) 調査団員

水田 加代子：国際協力事業団 専門技術嘱託（総括）

富田 祥之亮：(社)農村生活総合研究センター 主任研究員 調査役（作業監理委員・ジェンダー）

藤井 チエ子：元山口県専門技術員（生活改善普及）

吉武 和子： 山口県農林部農村女性・むらおこし推進室経営普及課農村生活班長主査（生活改善普及）

服部 朋子： (株)ウォーター・リサーチ 社会開発（業務調整）

太田 美帆： レディング大学大学院博士課程（農村開発）

伊藤 幸範： 国際協力事業団 農林水産開発調査部計画課ジュニア専門員（企画協力）

(7) 調査日程

日時	活 動	目的・討議内容
2月10日 (月)	移動	
2月11日 (火)	農業局(DOA)表敬訪問 農村開発公社(KPD)表敬訪問 マイクロクレジット基金(YUM)表敬訪問 ジェンダー・タスクフォース・チームとの会議	訪問趣旨説明等 ⁵ 普及員研修、プロジェクト実施チームとスケジュール・活動の打ち合せ
	JICA 開発調査実施調査団との 打ち合せ	訪問中のスケジュール・活動確認および打ち合せ
2月12日 (水)	プロジェクト対象地域かつ県4カ村 の調査(終日)	観光開発に沿った地場製品販路拡大プロジェクトサイトにおける生活状況や生計向上活動内容の理解

⁵附属資料②2月11日面会者リスト参照

2月13日 (木)	パンダン・マダマイ村（ヒタス地域）の調査およびワークショップ	遠隔地農村女性への啓蒙・教育活動拡充プロジェクトサイトの生活改善普及活動の現状把握と現地での指導、助言のためのワークショップ
2月14日 (金)	カリオン村（ヒタス地域）の調査およびワークショップ → 移動 コタキナルへ	未利用資源および廃材活用プロジェクトサイトの生活改善普及活動の現状把握と現地での指導、助言のためのワークショップ
2月15日 (土)	国立博物館見学 OISCA/KPD アンテナショップ 見学	
2月16日 (日)	コブル日曜市視察	サバ州最大の市場視察、サバ州の農産物・工芸品把握、農村女性の販売活動観察
2月17日 (月)	開発調査テクニカル・コミッティ モニタリング会議 JICA 開発調査実施調査団との打合せ	月1回のモニタリング会議出席 農村調査を終えてのコメント発表 2～8日目までの活動のラップアップ、留意点・改善点の討議、翌日セミナーの打合せ等
2月18日 (火)	政策立案者への「日本の農村生活改善」に関するセミナーおよび協議 → 移動（コタキナル→クアラルンプール）	日本の農村生活改善に関するプレゼンテーション（生活改良普及事業概要、第三国での応用実践事例の紹介）およびサバ州の生活改善についてのコメント発表と意見交換
2月19日 (火)	JICA マレイシア事務所訪問 → 移動（クアラルンプール発）	調査報告
2月20日 (水)	成田着	

（８）セミナー報告

サバ州政府政策立案者に対するセミナーが下記の通り開始され、関係者30名以上の参加を得た⁶。

1) セミナー名

The Study on Development for Enhancing Rural Women Entrepreneurs in Sabah, Malaysia Pilot Project 11

Meeting of Sabah Policy Makers and Japanese Experts on “ Japan’s Experience of Rural Development and Improvement of Living Conditions in the Rural Area “

2) 日時

平成15年2月18日（火）午前8時30分～午後2時



写真1. セミナー風景

⁶ 詳細は付属資料③2月18日セミナー参加者リスト参照

3) 場所

Beverly Hotel

4) 参加者

サバ州政府政策立案者（各省庁関係者）、当該プロジェクト関係者、調査団員

5) スケジュール

8:30 開会挨拶（農業食品産業省次官）

8:45 調査団挨拶（水田）

9:00 セミナーの趣旨説明（開発調査実施調査団総括 石田洋子氏）

9:15 出席者紹介（自己紹介）

9:30 日本の生活改善の概要（太田）

10:00 生活改善のビデオ上映（太田）

10:30 農村女性の役割から見た日本の生活改善とフィリピンでのプロジェクト事例（富田）

11:00 休憩

11:15 プロジェクト調査の感想およびコメント（藤井、吉武）

11:50 サバ州の農村開発政策の概要（農村開発省）

12:10 サバ州の農業開発政策の概要（農業食品産業省）

12:30 サバ州の女性と開発に関する概要（女性関連局）

12:50 討議

13:40 まとめ



写真2. 水田挨拶

6) 太田発表内容⁷

「Empowering Women through Livelihood Improvement Programme」と題し、戦後日本の農村開発の経験に基づく、生活改善運動を通じた女性へのエンパワーメントに関する報告がなされ、特に以下のような項目の説明・考察がなされた。

- ① 日本の普及システム：行政の体系、取り組む背景、農業改良普及員と生活改良普及員のアプローチの相違について等



写真3. 太田発表

⁷ 詳細は付属資料④太田美帆セミナー報告パワーポイント参照

- ② 「考える農民」：農民の気づき⇒農民自身が解決に向けて考える⇒アクションという一連のサイクルに責任を持つということ。
- ③ 普及員の普及活動、役割
- ④ 現在の農村女性
- ⑤ 普及を促進する戦略

7) ビデオ上映

「農山漁村の女性の起業」と題されたビデオ（農水省制作）を上映した。日本の広島県などにおける女性の起業活動の状況（女性グループが、地域で取れる農産物を使った郷土料理を創作し、レストラン経営などをするまで等）を説明したものである。

8) 富田発表内容⁸

「Activities for Living Conditions Improvement and Rural Women's Role in Japan」と題し、フィリピンの事例を基に発表がなされた。

フィリピンのボホールにおける事例紹介：自分達の方で「できること」から始めるアプローチとしてトイレの整備や料理コンテストの事例が提示された。

フィリピン政府の生活改善担当研修局
(Agricultural Training Institute,
Department of Agriculture, Philippines)
の研修事例紹介



写真4. 富田発表

9) 藤井発表内容⁹

普及はグループ作りが一番大変なのだが、地理的条件の悪い所で村人も普及員も積極的に活動していることに感心した。今後は、普及員がもっと村へ行く機会を増やす配慮と技術習得機会を作ることが望まれる。



写真5. 藤井発表

10) 吉武発表内容¹⁰

「技術を伝えること」と「技術を教える」とは異なる。「伝える」のは、例えば単にレシ

⁸詳細は付属資料⑤富田祥之亮セミナー報告パワーポイント参照

⁹詳細は付属資料⑥藤井チエ子セミナー報告要旨参照

¹⁰詳細は付属資料⑦吉武和子セミナー報告要旨参照

ピを説明することだが、教えるのは村人自身が自ら考えて工夫できるようにさせることである。グループメンバーが自主的に学び、話し合うようになることが大切で普及員は段階に応じて適切なアドバイスをする必要がある。普及員研修に教育概論や教育原理を取り入れることを勧めたい。



写真6. 吉武発表

1 1) セミナー総括

四つの発表とビデオ上映を基に質疑応答がなされた。マレイシア側の質問内容により、彼らの関心や現在抱える課題が見えてくる。例として具体的な質疑応答内容の幾つかを下記に示す。

- ① 太田発表の中に出てくる女性グループは協同組合か？
→自主的な集まりである。
- ② 例えば、組合にした場合、破産するし、騙すような人もいる。日本の場合はどのようなになっているのか？
→日本の場合は、自主的グループで別途組合活動は存在する。協同組合とは異なるアプローチである。この自主的なグループがまさに自分達自身で活動を進めていったのである。
⇒これに対してマレイシア側は、「グループ活動もそうだが、組合もなかなか上手くいかない。運営管理方法を教えて欲しい」と発言。
- ③ 女性の識字率はどのくらいか？ 教育の程度は？
→現在は、ほとんどの人が読み書きができる。戦後当時も多くの人読み書きできた。
- ④ ビデオに出てくる起業活動をしていたグループはなぜ、成功したのか？
→普及員は、農村女性の可能性、潜在能力を見つけるべき、その努力をしないとけない。グループメンバーも知恵と工夫が必要で資金が無くてもできる。
- ⑤ ビデオでは食物を作る事例だが、我々が取り組んでいる活動のような手工芸品の事例はないのか？
→今回は、たまたま食物だが、手工芸品を作って活動しているグループもある。
- ⑥ 成功しているグループの数はどのくらいか？
→山口県の場合だが、約400のグループがあり、約3000人がメンバーである。成功か失敗かという考え方自体をしていない。本当にたくさんの色々なグループ活動がある。
- ⑦ グループには補助金があるのか？
→戦後はなかったが、現在はある。だが、1/3位で残りは自分達で工面する。
- ⑧ 若い女性も参加しているのか？
→若い女性のグループもある。

⑨ 日本では、女性に関する問題を扱う機関は、行政の中できちんと位置付けられているのか？

→国、県、市町村の各レベルで女性問題を扱う部署がある。

⑩ その他マレーシア側の感想・意見¹¹

- ・ サバ州における活動立案および活動する女性にとって、有益な情報や事例を知った。
- ・ 関係機関との連携の重要性が認識された。
- ・ 実際に日本の生活改良普及員がどのような活動をし、どのような苦勞をしたのか、失敗例や成功例などの経験談を詳細に聞いたかった。
- ・ 日本の「一村一品運動」、「道の駅」などにも関心がある。

¹¹ セミナーの感想は付属資料⑧セミナーアンケート用紙および ⑨セミナーアンケート結果参照